校長室だより

２０２３年１月２０日
校 長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

学校 HP

絵の具の混色

図工で絵の具の使い方について勉強するとき，よく「三原色」について取り上げます。集合や重なりを表す「ベン図」等も用いて，実際に混ぜて画用紙に描いてみながら学びます。三原色（赤・青・黄）を水で薄くのばしながら混ぜ合わせたり，白を加えて不透明な状態で混ぜ合わせたりして，様々な色を作りながら，混色の感覚をつかんでいきます。三原色だけで，混ぜる割合や混ぜ方によって様々な色合いを表現することができ，子供たちにとって，色の仕組みを知る上で必要な学習です。

実際に絵を描く際にも，小学校で使用する絵の具は色の数が１２色程度と少なく，それを用いて表現するためには，三原色を基にした混色はどうしても必要です。しかし，ご存知のように，三原色を全て均等に混ぜ合わせると「黒」になります。そのため，１２色の絵の具を使って描いていても，描きながらそれぞれの色を混ぜ合わせていくと，混ぜれば混ぜるほど暗い色調になっていきます。

私は，大学を出て小学校教員になってから高学年を担任することが多く，絵の具を使った図工指導の際には三原色の指導から始めて，より自然な深みのある色彩表現を目指していました。１２色ある絵の具の中でも三原色と白だけを使って描かせることもありました。子供たちは三原色の仕組みをよく理解し，濃淡も使い分けながら様々な自然な色合いを表現していましたが，結果的には多くの児童の絵が，前述のように「暗い色調」になっていました。それは，「自然な色」「深みのある色」を目指した指導の結果ではありましたが，「自然で深みがある」ことは「暗い」ことではないはずで，若い頃，そのことで暫く思い悩んだことを思い出します。

私の父は画家でしたので（校長室便り 2021 年 5 月 21 日発行「洋画家 小崎隆雄」参照），家にはアトリエがあり，常に多くの画材に囲まれていました。油絵の具のチューブも，常時１００色以上がグラデーション状に並んでいました。私が実家に帰ったとき，父と絵画指導の話になり，前述の様な「暗い絵」の話をしたとき，父から次のように問われました。

「絵の具には，なぜ多くの色があるか分かるか？」

※裏面へ続く

切 り 取 り 線

子供たちのための，意見・提案・要望・校長に知らせたいこと　など

2023 年 1 月 20 日（　）年（　）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）

私が，答えが思い浮かばずに黙っていると，父は続けてこう言いました。

「たくさんの色の絵の具があるのは，色を混ぜないためだ。」

父は多くを語りませんでしたが，画家としてルノワールやモネなどの印象派に傾倒していたこともあり，微妙なニュアンスを表現するとき，自分で混色・調節するより，既成の色を直接使うことが多かったようです。 混色する際も，パレット上で混ぜるというよりキャンバス上で重ねて深みを出すような描き方をしていました。中には混ぜて作れない色もあります。絵の具を選び，多くの色を準備しておくことは,画家がイメージを持ってキャンバスに向かうとき,その前提として必要なことなのです。

私は，その話を聞いて衝撃を受けました。油絵と水彩画では技法は違いますが，子供たちがイメージする色を混色によって作り出すことは至難の業です。学習としての「三原色」の原理についての理解や「混色」の実験は経験として必要なことではありますが，その知識を用いても，イメージした色を混色で表現するのは極めて難しいことだと気付き，それまでの指導を反省しました。

小学校の絵画指導では，それほど多くの色の絵の具を用意することはできませんが，１２色であっても，全ての色の絵の具をパレットに少しずつ出して，更に混色して作った色もいくつか並べて，それぞれ一色として使ったり，パレットで混色して画面に持って行くことは避け，混ぜる場合は画面で重ねる技法を試みたり，筆を何本か用意して，随時洗いながらきれいな筆を使ったり，等，工夫して指導するようになりました。

このことから，絵画に対する自分の無知と指導法の未熟さを反省させられると共に，他の技能教科をはじめとして全ての教科において，自分の指導が本当に正しいのかどうか，改めて振り返り，反省し，改善していくことが大切だと思い知らされました。

小学校教員は，一人で多くの教科を指導します。もちろん，大学で小学校教員養成課程を修了し資格を持って指導に当たっているわけですが，その領域はあまりにも広く，しかも，変化の激しい現代でもあり，教師も，日々学び続けることが必要です。

郡山小学校の職員はその責任を果たすために，各自の努力に加えて，日常的，計画的な0JT（On the Job Training 《オンザジョブトレーニング》の略で，職場で実際の仕事を通じて「学び合い」「教え合う」こと）の実施などを通して，指導を振り返りながら日々研鑽に励んでいます。また学校として，鑑賞や校外学習による見学，各種体験学習,外部の専門家を講師に招いての指導など,本物に触れる機会も大切にしています。

今後も，子供たちに対して最前線で指導にあたる者として，郡山小学校の子供たちの将来のために，職員と共に，常に謙虚な気持ちを忘れず，努力して参ります。